

希望に向かって…

らく はた楽トーク vol.10



介護副主任
まつうら ふみ
松浦 芙美より

医療法人医誠会 介護老人保健施設
エスペラル近江八幡
〒523-0071 滋賀県近江八幡市大房町 1002 番地 1
TEL: 0748-32-1165 FAX: 0748-32-1190

エスペラル近江八幡の4階、認知症棟で勤務しています。80～90代の認知症を持つ方が入所されているフロアで、入所者さんは必要なケアが多く、お茶やお食事の際にも目が離せませんが、私は開設時にこのフロアで働くことを希望して入職しました。

介護の仕事に就こうとしたきっかけは、就職活動中に介護職のブースを覗いてみたことでした。学生時代は別分野を学んでいましたが、祖母を介護していたことと、お年寄りが好きだったこともあって職業として興味を持ち、この世界に飛び込みました。

仕事を楽しむコツは、心に余裕を持つことです。やり甲斐を感じる

一方で、利用者さんとの関わりの中で落ち込むこともあります。休みの日は買い物やドライブをしたりして、しっかりとリフレッシュ。翌日から「さあ、仕事だ」と利用者さんに笑顔で向き合います。

エスペラル近江八幡の介護スタッフは介護福祉士の資格を持つ方が多く、何かあればお互いに意見し合い、すぐにフォローし合うチームワークの良さが自慢です。職域を超えた連携もスムーズで、例えば月に1回、入所者さんと一緒にスイーツポテトやかき氷などを作る「おやつレク」では、栄養士やリハビリスタッフの方々と開催します。みんな積極的に協力してくれる、良い職場だと感じています。

個人的な目標ですが、将来的にはケアマネジャーの資格を取りたいと思っています。介護福祉士の資格だけでなく、ケアプランの仕組みや作成に関する知識も持って、地域福祉に貢献できるようレベルアップしたいと考えています。

スタッフ募集中! 詳しくは採用担当者までお気軽にお問い合わせください

糖尿病教室 毎月第3木曜日の11時から (1時間程度)

糖尿病の症状や正しい食生活について、当院の内科医師・管理栄養士・理学療法士・薬剤師・臨床検査技師・看護師等による講演です。

場所: 当院 新会議室(2階)

- 12/15 小瀬木医師「糖尿病は合併症が怖い!!」
管理栄養士「気をつけたい『さ・し・す・せ・そ』～調味料の使い方～」
- 1/19 薬剤師「あなたはどんな薬を飲んでいるのか! (糖尿病の薬の話)」
管理栄養士「糖尿病食にぴったり! おすすめ食品&ひかえめ食品」

参加費無料の全6回シリーズです。
途中の回からでもお気軽にご参加ください。



お知らせ

近江八幡コース

シャトルバス増便しました

病院とJR近江八幡駅(北口)を結ぶ無料のシャトルバスを増便しました。

これに伴い、シャトルバスの時刻表を一部変更しております。詳しくは病院にてご確認ください。

	A-5	B-8	B-11
病院	10:00	13:15	16:00
沙々貴神社	—	—	○
安土駅	—	—	16:10
近江八幡駅北口(観光案内所前)	10:20着 10:25発	13:35着 13:40発	16:20
安土駅	10:35	13:50	
安土郵便局	○	○	
十六団地	○	—	
衣笠台	○	—	
安土役場	○	○	
西老蘇	○	○	
病院	11:00	14:10	

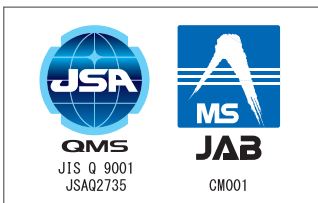
診療科目 内科・外科・整形外科・皮膚科・耳鼻咽喉科・人工透析内科・人工透析室(38床)・リハビリテーション科・泌尿器科(休診中)

診察日 月～金 午前診察・午後診察 / 水・木は午後休診
土 午前診察 ※日曜日・祝日は休診

診療時間 午前診察 9:00～11:30 / 午後診察 13:30～16:00

地域医療連携室 TEL: 0748-48-5558 FAX: 0748-48-5722

広報責任者 山本 寛人



はなてんびん

医療法人医誠会
神崎中央病院
Vol.100 2016.12
発行: 地域医療連携室

Pick up photo



はなてんびん 広報誌はなてんびんが、今月号で100号を迎えました。地域医療の懸け橋になろうと産声をあげ、リニューアルを繰り返しながら毎月10日に発行すること8年余り。たくさんの印刷物の中からも手に取ってもらいやすいようにと工夫した淡いピンク色の用紙、もうすっかりお馴染みとなりました。



contents

- 神崎最前線
- 特集: 院内活動のご紹介
- エスペラル近江八幡だより 希望に向かって…/ 糖尿病教室 / シャトルバス増便のお知らせ



とだ やすのぶ
内科 戸田 泰信



父が重病となり、十数年ぶりに北摂のあるニュータウンにある実家に何度か行くことになった。久し振りに訪れて驚いたのは昼間というのに人影がまばらで、歩道と車道の境目の植え込みは雑草がはびこっており、空家もちらほら認められたことだった。その地区の中心部にある駅の付近も同様の状況であり、以前にレストランが入っていたホテルの1階には何とパチンコが入居していた。さらに驚かされたのは雑草が伸び放題であることに両親とも全く気がかけていないことであった。

そのニュータウンは昭和の終わり頃に松茸山を切り開いて開発されたが、両親はその時にそこに移り住んだのであった。そのときはすべてが新しく光り輝いていたのだが、30年弱たった今はメッキがはげ落ちたような有様となっていた。

考えてみればニュータウンの住民の殆どは雇われ人であり、家業を持たない人々である。子供も大きくなれば、そこには就職先がなく、巣立って他所の土地で就職してしまう。残った人々は年金生活者であり、地域は高齢化し、最終的には限界集落となってしまうのであろう。家業のない住民ばかりの街は、遺伝子操作されて実が成らなくなった一年草のようなものであり、最初は豪華に見えるがだんだんみすぼらしくなってくるのだと思われる。かく言う筆者も家業を持たない者のひとりであるが、現在住んでいるところは旧くからの集落であり、周囲に家業を持つ者も多く、あまり荒れ果てた雰囲気はない。真に土地に根を下ろすことの大切さを感じさせられた。

いろいろ考えさせられる秋であった。



特集 院内活動のご紹介



医療事故の防止に向けて

医療事故防止を目的に、各部署で

「整理」「整頓」「清掃」「清潔」「躰」の5つの「S」

を心がける5S活動に取り組みました。毎年活動を継続的に実施することで、職員一人ひとりが質の高い看護ケアを提供できるよう意識付けを行っています。11月末には医療安全推進週間に合わせ、各部署で取り組んだ内容をポスターにまとめて1階ロビーで掲示発表を行いました。



病院ってどんな職場!?

11月7日(月)から11月11日(金)、東近江市立五個荘中学校2年生のお二人が、職場体験学習で当院を訪れました。院内を見学したあと、看護部やリハビリテーション科、放射線科、医事課など病院の各部署での仕事を体験したり、入院中の患者さんと触れ合ったりしました。



あのとき、このとき…

創刊から100号を迎えた広報誌はなてんびん。神崎中央病院のホームページでは、創刊号から全バックナンバーをご覧いただくことができます。

URL

